何と優さしい卷物――姫、さらば許されよ。（とボルシアに接吻す）かく致すも天下晴れての仕業、與るも取るも皆卷物の命合通りぢや。之につけても、懸賞の晴れの仕合に臨める勇士の敵手に勝てりと思ひながらも、さて拍手喝采の騷音をきけば、心は惑ひ眼は眩みて半信半疑、はて今のは吾を讃めたる聲なるか、それとも敵手を讃めたるかと、思ひ煩らうと同じく、拙者も亦、目に見るものゝ眞か僞か、自らも疑ひ惑ふやうな始末。姫の御手から、確かにそれに相違ないとの、何ぞ證據の品でも貰はねば、氣が晴れぬぞいな。

ボル　アレ、バッサニオ樣、爰に立つ妾に、何の御懸念がムりませう。見らるゝ通りの者でムりまするわいなア。わが身一人の爲めならば、別にこの上の慾とてもムりませねど、たゞ郎君の爲めには、慾に際涯がありませぬ。身に五六十倍の價値がついて、容色は千倍、財産は萬倍にも增したうてなりませぬ。これと申すもたゞ郎君に、愛でられたさの一念、愛でられたさの一念に、品性も容色も、財産も、朋友も、彼も此も、際涯なく欲しうてなりませぬ。されどうたてや、妾の取得とては、掻きあつめても、聚めても、塵にも足らぬ不束者。つゞめて言へば躾もわるく、仕込も足らず、よく〳〵の世慣れぬ我儘者でムんすわいなア。唯年齡の若いがまだしもの幸福、覺束無くとも取る手があらば、學びの道を進みもせう。胸のかゞみの錆びもせで、磨けばやがて光る日の、到るを待つは更に幸福。されど妾の身に、眞の取得がありとせば、そは松が枝にからむ藤蔓、郎君にその身を任せたなり、汗とかへらぬ綸言の命を仰ぐ心もて、飽まで忠實に仕へまつらむ一事にムりまする。今はいよ〳〵妾

の身も、身に附ける一切の物も、すべて郎君のもの郎君の身に附ける物となりて侍る。思へばげに夢のやう、今の今まで、妾はこの邸宅の持主、この數ある奴婢の主公、この一身の司配者にムりました。然るに今の今、これなる家も、奴婢達も、さては、これなる妾の身も、皆悉く郎君のもの。右は一切此指輪に添へて郎君に捧げまする。この指輪こそ一生の契のしるし。若しもこの一品を賣るか遺失すか、又他人に遺はされもせば、そは郎君の心の變りし兆候、容易にその急所を離すことてはムりませぬぞえ。

バッサ　あゝ姫、何と返事をしてよきやら、拙者には分りませぬ。潮と湧く熱血の、たゞ總身に漲るばかり。拙者の四肢百官は、皆混沌の渦中に捲き込まれて、前後左右も判別がつかぬ。例へば德望高き明君が、民衆の前

に立ち、一場の訓諭に辭令の妙を盡せし後には、勇み喜ぶ群集の間に、感歎の聲少時は鳴りも止まず、甲唱ふれば乙和して、目にもしるきはたゞ滿足の色、萬口一時に發する言葉の、一々は聽きとれぬに似たる、宛然その通りの吾が心の混雜にムる。（作者の頭に持てるならん）（エリザベス女王の演說を）イヤ併し此指輪につきては御念には及びませぬ。この指輪が、この指より離れむ時は、即ち生命の失せむ時、その時にはバッサニオを世に亡きものと思されて苦しうない。

チリ　憚り乍ら旦那樣、御姫樣私どもはこれまて一伍一什をたゞ拜觀して居りましたが、一同の希望通り、かく御芽出度いことになりました上は、今こそ、御祝詞を申上げてよい時と存じまする——御兩方、眞に大慶に存じまする。

グラ　バッサニオ様と、それから御夫人様、この度は誠にお芽出度い仕合せて、何れ御同様と申上げたいやうな次第で、そのお芽出度い所に私どもも肖りたいやうなわけで、いよ〳〵御兩方が御婚禮の儀式を擧げらるゝ曉には、是非その私供も、婚禮をさせて戴きたいもので。

バッサ　それは大に賛成致すが、その前に卿に於て女房を一人見立てる必要がある。

グラ　イヤ御蔭様で、既に女房を一人見立てゝ戴きました。憚り乍らバッサニオ様、拙者の眼も、貴所の眼に劣らず鋭い。貴所は姫様に御眼をとめられた。拙者は腰元に眼を留めた。貴所も惚れられた。拙者も惚れた。斯かる事に躊躇するのは貴所も嫌、拙者も嫌ぢや。シテ貴所の運がそれなる手筥に懸れるが如く、拙者の運も亦、矢張りその手筥に懸つて居た。その來歴を申上ぐれば、實はその、拙者奴は、汗水垂らして、これなる美人を附けつ纏しつ、上顎が干上がるほど口説いて〳〵口説き抜いて、漸く大願成就とまて漕ぎ著けましたので。だゞそれは條件附きの話、貴所の武運芽出度くして姫様を我物とされし上ならてはとの契約にムりまする。

ポル　チリサ、それは又事實かいな。

チリ　ハイ……若し姫様のお許可さへ戴かれまするなら。

バッサ　シテ、グラチアノ卿も充分本氣の沙汰か。

グラ　誓つて全く本氣の沙汰て。

バッサ　それは何よりの吉報ぢや。吾等の祝言の儀式も、卿達の祝言の爲めに一層引き立つて見えるといふもの。

グラ　なア子リサ、何方の組が、先つ男の子を擧げるか、千兩賭の勝負をしやうか。

子リ　エッ、賭をしまする？

グラ　イヤ到底吾々夫婦が勝てる見込はないから廢すとせう。それは兎に角、誰ぢア其所へ參つたは。ロレンゾとその情婦の君か。これは又何うした譯、ソラニオまで遣つて參つた。

ロレンゾ、ヂエシカ、及びヴェニスよりの使者ソラニオ登場

バッサ　ロレンゾ、ソラニオの兩兄、善うこそ拙宅へお出てくだされた——イヤ只た今資格を得ただかりの小生には、こりや聊か口巾ッたき口上ぢやつた。喃ポルシア、拙者同國の親友を欵待つほどに、許して呉れよ。

ポル　ハテ入らぬ御遠慮、欵待たんて何としませう。

ロレンゾ　御鄭重なるお言葉、難有い仕合せにムりまする。實はバッサニオ氏、拙者は最初よりお訪問せん所思てはなかりしが、途すがら、これなるソラニオに邂逅し、達ての勸誘もだし難く、これまで同道致せる次第。

ソラニオ　全くそれに相違なく、拙者が同行を勸めました。これには譯がムりまする。アントニオ氏よりは宜しくとの事にムりました。

とバッサニオに一通の書狀を渡す

バッサ　書狀の封を切る前に、後生ぢや、一ッ聽かせて呉れよ。アントニオには別條はムらぬか。

ソラニオ　病氣とは言はれませぬ、身躰から申せば。尤も達者とも言はれませぬ、あの氣分では。——何はしかれ、その書狀にて近況が御了解になり

ます。

グラ　テリサ、それなるお客様をよく慰めて、欵待つて呉れるがよい。時にソラニオ氏一ッ御手を。（と握手する）何ぞヴェニスから新奇しい消息でも齎つてまゐらぬか。親玉のアントニオ氏には近來如何して居られるな。吾々の今回の上首尾を聞かれたなら、さぞ歡ばるゝ事であろう。吾々はかのヂェーソンの亞流、大事の寶物をば首尾克く手に入れた。（ヂェーソンの故事は第一幕第一場の末段に出てたり）

ソラニ　イヤ左樣の寶物よりは、アントニオ氏の矢はれし、財寶なりと手に入れて呉れゝば善かつたに。

ボル　ハテ氣懸りな、あの日頃美しい郎君のお顔から色艶が失せるといふは。何ぞ凶惡事が、あれなる書狀の中に書いてあるに相違あるまい

別懇の朋友なりと死去つたか知らぬ。さもなくば、何事ありとて、彼樣な穩當な御方の精神を、これほどまでに顚倒させる筈はない。やゝゝあれ、あのお顔の色が次第に惡るうなる！――これいなァバッサニオ樣、煩いと仰せらるゝかは知らねど、妾は半ば此方さまの妻、憂さも愁さも二ッに割つて味はんで何としませう。その御書狀の中に何が認めてあるやら、聽くべき丈は何卒聽かせて戴きまするぞえ。

バッサ　おゝ卿にまで多大い苦勞をかけて相濟まぬ。實はこの書狀の中には世にも面白からぬ文字が載せてある。想ひ起せば、過ぐる日のこと、胸に思ひのあり丈を初めて卿に開陳せし折、拙者は一切有りの儘に身には一錢の財產も無く、持てるはたゞ血統の實、裸一貫の紳士ぞと陳べました。その時拙者に露詐言を言ふ意、思とてなかりしが、裸一貫

といへる右の文句は、今より見れば甚だしい掛値、さぞ卿は某を虚言家の一人と思ふてあらう。裸一貫といへるは全く拙者の粗忽、實は裸一貫以下と言ふべきてムつた。その理由を申上ぐれば、拙者は親友の一人に依み、日頃渠と仇敵の間柄なる猶太人より、吾が入用の金子を調達致させましたので。――これがその親友よりの書狀てムる。書狀を友の肉躰とせば、中なる一字一句は皆急所の生疵の痕、尊き血汐が迸り出る思がするわいなア――が、それにしてもソラニオ、之は事實に相違ないか。アントニオの商品は悉く難船したのてムるかだゞの一個も救はれたものはムらぬが。トリポリスからも、メキシコからも、又英吉利からも、その他リスボン、バーベリー、印度等からも一艘も歸つて來ませぬか。たゞの一艘も、畏ろしい暗礁の危難を免れたものは

ムらぬか。

ソラニオ　たゞの一艘もムりませぬわいなのみならず、よしやアントニオ氏の手許に返濟すべき現金が、整つてあるにしても、あの高利貸奴が、それを受取るべき摸樣は見えませぬ。人間の皮を被つた動物の中にて、あの猶太人ほど、他人を破滅させやうと、一心不亂に苦心して居る奴は、まだ拙者の眼に見た例はムりませぬ。彼奴朝夕、殿樣の許に押しかけ行きて、若し裁判を許さぬとあらば、これ即ち内外人共通の特權を蹂躙するものぢやと難題を弁べまする。これまて、二十人許の紳商達が、入り換り、立ち換りて說得を試み、又殿樣を初め、その他高貴の方々からも樣々に說諭を加へましたが、シャイロック奴は頑として抵當裁判證文を振り翳し、桿ても動く氣色が見えませぬ。

ヴェニス　あの妾がまだ父の許に居りました頃にも、父は同國人のチュバルやらチャスやらに打ち向ひ、貸した金子を二十倍にして返濟されるよりまだ〳〵アントニオの肉を取ると申して居りました。それゆゑバッサニオ樣、若し官府の御威光で、それを御制止になられませぬなら、お可哀相にアントニオ樣には、飛んだ酷いお目に逢はされますわいな。

ポル　シテ斯く困難の地に陷たお方は、郎君と御別懇の間柄なのでムりまするか。

バッサ　それは最う、拙者に取りて無二の親友――飽まて親切で、高尚で、義理を盡すことに倦怠を知らず、往古の羅馬の武士氣質が、そッくりそのまゝ具備つて居ること、あのアントニオのやうなものは、以太利全

國に二人とはあるまい。

ポル　その猶太人からは幾何の金子をお借りなされましたので？

バッサ　拙者の爲めに三千兩。

ポル　たゞそれしきの金額にムりまするか。それならば、右の金額を二倍にして、六千兩を拂ふた上に、證文を御取揚げなされませ。更に其六千兩を二倍、三倍にしても苦しうはムりませぬ。それ程大事の親友が、バッサニオの爲めに頭髮の一筋損はれたと言はれてはなりませぬ。それにつけては、これより直に寺院に赴き、公然に妾をば郎君の妻となされませ。シテ婚禮の儀式さへ濟まば、即刻ヴェニスなる、その親友をば訪問れらるゝが善い。身不束ながら、心に疚しき所ある良人に、新枕はかはさせませぬ。金子などは、さばかりの端銀、二十倍にして返す程の

用意をなされませ。聽て奇麗さつぱりと拂はれし上は、其親友を伴はるゝやうお願ひ申しまする。その間テリサと妾とは、身は處女の寡婦暮し、寂びしい、待遠しい不在を守つて居るぞいな。いざ、とくお出ましなされませ。これから直ちに祝言の式へ臨むのてムンすわいなア。遠來のお客樣は、存分に歎待つてお上げなされませ。そして嬉然な、愉快いお顔を見せてたも。苦勞に苦勞をした上に、連添ふた郎君ぢやものを、大事にせんて何としませう。——一寸そのお書狀をきかせてたも。

バッサ　〔朗讀すること〕　バッサニオ兄、余が所有の船舶は悉く難破し、余が金を借りたる債主連は何れも冷酷を極め、余が元氣は全く銷沈し、又余がシャイロックに對する借用證書は期限を誤れり。之を返濟する時は余が生命は到底救はるべくもあらねば、最期の際に、願くは足

下と一度面會せしめよ。足下の懷かしき顏さへ見ることを得ば、余等の間には、恩もなく又借もなく、思ひおくこと更に無し。但し來るも來らぬも、そは足下の隨意たるべし。若し愛人の許可なくば、この書狀の爲めに無理に來訪さるゝには及ばぬぞかし。

ポル　こりや斯うしては居られぬ。一時も早く萬事を處理けて御出立なされませ！

バッサ　行けとのゆるしか出し上は、このまゝ首途を致さうぞ。行く途々は臥床に入らず、枕にも又就かずして、飛ぶが如くに行つてまゐらう。

と一全　場

第三場　ヴェニス市　街頭

シャイロック、サラリノ、アントニオ及び獄丁登場

シャイロック　獄丁どの、此男を逃がして呉れまいな。慈悲の絲瓜のと左樣の事に傾ける耳は持たぬ。これが即ち無利息で金子を他人に貸して居た大馬鹿者でムる。獄丁どの逃がしては呉れまいな。

アントニオ　これ〳〵シャイロック、今一應拙者の申す所を聽いてくれまいか。

シャイ　イヤ拙者は證書通りに履行されたいのぢや。證書を無効に爲いなどゝ、何遍言ふても誰がきくものか。既に神前に於て、是非とも證書通りに履行すると誓詞まで立てたシャイロックぢや。なァアントニオ、汝は恩も怨もない拙者を捕へて、犬呼はりをして居つた。が、犬なら犬て

善い。犬であるから此犬の牙に氣をつけるが善いわ。殿樣にも是非この裁判を許可して貰はねばならぬ。それにしても獄丁、汝は何といふ馬鹿者ぢや。汝までが彼奴の請求通り、連れ立つて外出するなどゝは、何といふ緩慢い仕業、言語同斷と言はねばならぬ。

アントニオ　これ依む、今一應拙者の申す所を聽いて呉れ。

シャイ　イヤ拙者は證書通りに履行されたいのぢや。汝などに貸す耳は持たぬ。證書通りに履行して呉れゝばそれて外に用はない。モー何も言ふな。仲裁の文句などに往生して、御無理御尤と、溜息ついて頭を縱に振るやうな、左樣ナ生溫るい、寢惚面の痴者扱をされるのは眞平ぢや。後尻を附いて來るのは廢めるが善い。會話は無用ぢや。拙者は證書通りに履行されたいのぢや。

サラリ　人間の仲間入りをして居るものゝ中に斯ンな情知らずの山狗は無い。

アントニオ　イヤ最う構はずに放つて置かれい。益にもたゝぬ嘆願などをして彼樣な奴の後を追ひ廻はすのは最う致さぬ。彼奴は飽までも、拙者の生命を奪はんとして居るのぢや。其理由も善う分つて居る。拙者は今迄彼奴の高利に苦められし人々からの愁訴をきいて、幾度救助してやつたか知れぬ。それ故彼奴拙者をば怨恨に思ふて居る。

サラリ　よもや殿樣に於かれても、この人肉の抵當をば認可さるゝこともあるまい。

アントニオ　イヤ殿樣とても天下の公道は枉げられぬ。元來此ヴェニスに於ては、外人も吾々内地の人民と、同一の特權を與へられて居る。然るに此特

權が許可されぬとありては、甚だしく國家の威信を損ずる譯。市の貿易は皆外人を相手に成立して居ること故、こりや中々容易ならぬ重大事件ぢや。最う致方がない、このまゝ歸るとせう。それにしても、近來重なる損失と、種々の心痛との爲めに、見る影も無く憔悴果てたる拙者の身躰明日の裁判に、果して一斤の肉が債主の鬼どのに渡せるであらうか。獄丁どの出掛ませい。――たゞ今生の願望には、バッサニオにと一仝退場

裁判の間に逢はせ、拙者が借用の金子を返濟する現況を目擊させたいものぢや。

第四場　ベルモント　ポルシア邸の一室

ポルシア、チリサ、ロレンゾ、ヂエシカ及びバルサザール登場

ロレンゾ　面のあたり、かゝる事を申上げるも失禮乍ら、奥樣が世の常ならぬ御兩方の交情を篤と汲み分けて、何所までも義理を忘れぬ御心根の高潔には、拙者つく〳〵感服致しました。殊に旦那樣の御不在の憂さにも、露お厭の御樣子もなく、いつも麗しき御機嫌を拜するは、何といふ難有い事に厶りませう。が、同じ義理立をするも人にこそよれ、奥樣の心盡しのアントニオ氏と申すは、正眞正銘の天晴紳士、又旦那樣とは無二の親友。されば若し奥樣が、同人の氣性をとゝくり御理解の上からは、斯人の爲めには一臂の勞も惜からじと、必然思召さるに相違

ない。世間一と通りの義理親切を盡すとは、又格別のお張合が厶りませう。

ポルシア　されば いな、心に善とせる事を行ひて、妾はまた、悔た例は知りませぬ。今後に於ても左樣なうて何としませう。元來日頃足繁く往來して、兄弟の如く交はり、固く愛着の紐もて、結ばれたる親友の間には、其外貌にも、態度にも、又其精神にも、必らず類似の點があるもの。今其アントニオといふ御方が、わが良人バッサニオと水魚の仲である上は、必らず互に類似れる筈。若しも類似つて居る上は、此大切の御方を、焦熱地獄の苦境より、救はん爲めに妾より遣はしたる金子などは、固より物の數には入りませぬ。何はしかれ、この話柄は何うやら我が田に水を引くやうにて、面白くない程に、最うこれだけに、中止るとして、他のお

話を致さうぞいな。――さてロレンゾぬし、實は貴所に折入つての依囑がムりまするが、何卒わが良人の歸宅らん日まで、此家の家政やら、監督やら、是非擔當けて戴きますぞえ。其間、妾は何を致して居るぞとの御不審もムりませうが、實はこれも神樣に立てし秘密の誓詞のある故。これより子リサとたゞ二人、良人の歸つて來ますさん日まで、ひたすら祈禱三昧に心魂を澄ますむ覺悟。此地を距ること二里の地に立てる尼寺、妾達は、それを假の宿所とは致すぞいな。右の次第故迷惑とも覺されやうが、何卒此重荷をば擔當けてたもれ。これも貴所に對する信任と、一ッは又遁れがたき事情との爲めてムんすぞいな。

ロレンゾ　それは誠にお易い御用、折角の御仰に從はんで何としませう。

ポル　奴婢だちも事の樣子は知るほどに、吾等夫婦に冊くと同じく、卿夫

婦に冊くことでムりませう。さらば御依囑申しましたぞえ。

ロレンゾ　御機嫌克う御安泰に行つてお出でなされませ。

ヂェシ　奥樣、蔭ながら御無事の程を祈つて居りますわいな。

ポル　御親切の程忝ない。妾とても同じやうに、卿の無事を祈るぞえ。ヂェシカどのさらば。

とヂェシカ、ロレンゾ退場

さて、バルサザール――其方は今まで正直律義に勤めて呉れたが、今後とて變らぬてあらうな。いて此書狀をば懷中致し、脚の續かん限り、根限り、パヂュアの町に行つておじや。して此書狀は身の從兄弟ベラリオ博士に相違なく手渡すが善い。さすれば、先方よりは書狀と衣裳とが手渡されるてあらうが、よく、氣をつけて件の品々を受取つた上

は、ひた走りに走りてヴェニス通ひの解船に乗込むがよい。ハテ返答などは際際しさ早う出立いたせ。身は其方の先廻りして、ヴェニスの町に待つて居るぞえ

バルサ　奥様、さらば力限り、韋駄天走りに行つてまゐりまする。

と退場

ポル　早うするがよい、子リサ。其方が知らぬ仕事が、まだ塞へて居るぞえ。——これより直ちに準備に着手、其方の良人も、わが良人も、氣のつかぬ時に、その顔を見てやるのぢやわいな。

子リ　先方でも妾達を見まするので？

ポル　それは見せるわいな。されど此方の服裝は悉く取りかへて、無いものを有るやう、知らぬことを知つたやうに欺くのぢや。一と口に言へ

ば、若い男子の服裝に姿を變へて出掛けるのぢやわいな。子リサ、其方と賭事せうか。何れが男子として手際よく、劍さばきに力がこもるか、必然其方などには負けはせぬ。先づ身の男子になつた時には、大人と小供との變移期の黄色い聲に、囃り立てゝ、日頃のチョク／＼した刻歩をば男子らしい濶歩にかへ、誰憚らぬ生意氣盛りの、青年そのまゝ、口任せに喧嘩の話をしてきかせる。時には又艶ッぽい所を見せ、實は小生日頃より、兎角婦人より好かれる性質が、片端より拒絶けて呉れたので、いづれも終に相思病の、擧句の果は墓場の露。嗚呼婦人から好かれるばかりは、小生にも致方がムらぬ、などゝ幷べ立て、さて、併し今更考ふれば、小生も餘り無情さ過ぎた。氣には入らずとも、何にも殺さいでものことぢやつた、などゝ萎れて見せる。先つ斯樣な法螺の二三

十も言うてきかすれば、こりや學校を卒へて、少くも一年は經つた青年ぢや、などと大概の人は思ひ違へるであらうぞ。生意氣な若者の、乳臭い癖ならば、千や二千は知つて居る程に、實地にそれを使用つて見やうわいな。

チリ　すりや奥樣、妾達は男子方と、同じ衾を重ねるのでムりまするか。

ボル　あれチリサ、言葉を少し慎むが善い。男子方と同じ衾を重ねるなどと、口の惡るい方に聞かれたなら何とするぞえ。何はしかれ、馬車の上にて一伍一什の計畫を言つて聞かせるとせう。モー馬車は外門に待つて居る筈。さ、早う、今日の中に二十哩の道中をせねばならぬ。

と兩人退場

第五場　同上　庭園内

ランセロット及びヂエシカ登場

ランセ　イヤ全くそれに相違ムらぬ。何故と申して貴女、親の因果といふものは皆其子に運るものと、古來相場が決つて居まするからなア。それ故、拙者は誓つて、ソノ貴女の爲めに頭痛鉢卷を致しまするで。元來平生から拙者は貴女に對して、萬事露骨に申上げて居るが、今回も同樣に、衣に齒被せず、有りの儘に御高見を申上げるやうな次第。それ故決して貴女は落膽なすつてはなりませぬ。貴女が未來永刼浮ぶ瀨なき事は拙者の衷心から保證する所で。たゞ爰に何うやら、物になりさうな妙案が一ッある。尤もその妙案といふのも、頗る不屈きな性質のもの

で……。

ヤエシ　して、その妙案といふのを聽かせては呉れまいか。

セラン　さればでムるナ、その妙案といふは、貴女の父親が貴女を製造せず、從つて貴女が猶太人などの娘でないことで……。

ヤエシ　ホンにそりや不屈きな妙案ぢやわいな。さすれば、仇し男と契を結んだ、母の罪障も、この身に運るであらうな。

セラン　いかにも左樣で。して見ると、貴女の身躰は、父親からも、母親からも、兩方から祟られて居ますな。前門父の狼を防げば、後門母の虎の牙にかゝる。こりや八方閉塞、何れに向いても浮む瀬がない。

ヤエシ　ハテ宜わいな。妾には大事の良人が附いて居る。良人の手に救ふて貰へる。最う、身の改宗も濟んで居るわいな。

セラン　それこそ彌々不屈な御亭主どのぢや。耶蘇信者の數は目下多きに過ぎてこの上に用はない。この上その數が增加したなら、人間は同時に住むことが出來なくなる。又耶蘇信者の增加は必らず豚肉の價を高める。若し世間悉く豚肉喫者となれば、その時は豚の品切となり、いかに大金を擲つても、燒肉一片炭火の上に拜まれなくなるだらう。

ロレンゾ登場

ヤエシ　其方の今申したことは、殘らず良人に告げるぞえ。幸ひ其所に見えられた。

ロレンゾ　こら〳〵ランセロット、拙者の女房を、さう物蔭などに連れ込むと、今に汝に對して吝氣を起したくならうぞ。

ヤエシ　あれロレンゾぬし、その配慮には及びませぬ。ランセロットと妾とは

不和して居りますわいなア。少しは遠慮といふもあるものを、妾を捕へて汝は、猶太人の娘ゆゑ、未來永刧浮ぶ瀬がないなどゝ申しました。尙ほその上、和主の事も惡口雜言、猶太人の婦女を耶蘇教に改宗させて、豚肉の價を高めるやうな者は、決して御國の良民ではないなどゝ言ふたわいな。

ロレンゾ　それしきの事を御國に對して辨解するは譯もなき事、汝が黑ン坊の女の馬乘り事件の方が、遙かに辨解に苦むぢやらう。なァランセロット、あの黑ン坊の女は、汝の種を宿して居る。

セラン　イヤ黑ン坊にして赤ン坊を生むは、こりや稀有のお手柄但し同人若し眞紅な嘘を吐くに於ては、流石の拙者も靑菜に鹽。

ロレンゾ　これは呆れる。道化者といふものは、彼れも此れも、皆駄洒落ばかり

言つて居る。近い内に、默つて何にも言はぬのが、却て洒落の上乘、饒舌は單り鸚鵡の間にのみ行はるゝやうになるであろう――さ、大將早く内へ入つて呉れ。そして食事の準備をするやう吩咐けて呉れ。

セラン　準備は最う出來て居ります。誰も胃袋は空かせて居る筈。

ロレンゾ　汝も中々惡洒落の達人ぢやナ。では、食事を整へるやう吩咐けて呉れ。

セラン　所が、それも最う出來て居ります。たゞ卓布を掛けい、と言へば澤山。

ロレンゾ　然らば卓布を掛けて呉れいかッ。

セラン　おつと、其語も矢張り無用。拙者のやうなものでも、身體に布帛をかけて居る。裸體で食事は致しませぬ。

ロレンゾ　まだ、言草を言つて居る！あゝ五月蠅く。愚圖〳〵ぬかして有る

丈の酒落を皆一時に打ち開けて了ふ氣か、拙者如き淡泊な人間の言葉は、淡泊に解釋して貰はう。さア仲間の所へ飛んで行き、食卓には卓布を掛け、皿には肉を盛り分けるやう申し付けろッ。さすれば俺達が食べに行く。

セラン　おッと又違つた、食卓といふものは、それは盛るべき筈のもの、肉といふものは、それは卓布をかくべき筈のもの。それから貴所の食べに來る來ぬは、それは御隨意、御氣分次第。

とランセ退場

ロレンゾ　驚いた出鱈目、何といふ頓珍漢な文句ぢや。あの道化者奴、地口、駄洒落を山ほど頭の内に詰め込んで置き、それを手當り次第に並べ居る。尤も何の道化者も、大抵皆似たより、寄つたり、最つと上等の地位に使はるゝ道化役でも、矢張り意義には頓着せず、たゞ記臆しておける引ッ掛を並べるに過ぎぬのが多い。時にヂェシカ、氣分は善いか。又バッサニオ氏の令閨に就きては、卿は何と思はるゝぞ。

ヂェシ　何と讃へん言葉もムりませぬわいな。これにつけても、バッサニオ樣には品行を餘程慎まねばなりませぬ。天女のやうな奥方をお持ちになるは、つまり現世に在りながら、天國の快樂を身に享ける道理。從つて現世に居る時、品行を正しくせねば、とても未來に、天國には參られぬ筈。ホンにまアお立派なのは、ポルシア樣の御器量。若しも天國にて二柱の神達が、何ぞ勝負を遊ばされ、下界より率てまゐれる二人の美人を賭物とせらる場合もあらば、一方にポルシア樣が出るが最後、之に匹敵るべき婦人は、この醜い世界には、とても見當る筈はない。外に

貴重の品でも添はねば、平均の取れる婦人はありませぬ。

ロレンゾ　所が良人としての拙者の價値は、女房としてのポルシア樣の價値と對等、何と卿は果報者ではあるのう。

ヂェシカ　それは、さうでもあらうが、妾の意見も聽くがよい。

ロレンゾ　聽きもせうが、それよりは先づ食事をするとせう。

ヂェシカ　でも今思ひ立つた時に、讃めてやりたいわいな。

ロレンゾ　イヤ後生ぢや〳〵。食卓の肴に取つて置いて臭れ、食事の時なら何を言はれても、構はず一所に嚥下して了ふ。

ヂェシカ　それなら思ひ存分和主の品評をしてやるぞえ。

と兩人退場

第四幕

第一場　ヴェニス市　法廷

ヴェニス公、諸貴族、アントニオ、バッサニオ、グラチアノ、サラリノ、其他登場

公　いかにアントニオは出廷致して居るか。

アントニオ　はッ出頭致して居りまする。

公　余は其方が誠に不憫に堪へぬ。其方と、今日對審すべき人物は、心木石に異らず、慈悲を解せず、人情とては露ばかりもなき人非人ぢや。

アントニオ　承れば殿樣に於かれては、同人の苛酷なる申立を緩めん爲めに、一と方ならず、御盡瘁をなされし由、拙者身に餘り、冥加至極に存じます

る。なれども同人に於ては、俺まで執拗に我意を押通さん所存、シテ其毒手を遁れん手段は、法律の許さぬ所と存じますれば、拙者に於ても、最早わるびれは致しませぬ。意地と我慢を我身の楯とし、非理非道の蠻行をも、自若として耐へ通さん覺悟にムりまする。

公　誰ぞあるか、猶太人シャイロックを法廷に呼び入れい。

サラ　戸口に於て命令を待つて居りまする。イヤ最うそれに見えました。

シャイロック登場

公　一同場所を空けて、同人を余が面前に連れてまゐれ。――さてシャイロック、其方が今回の訴訟に就きては、世間一統、また余自身とても、種々取沙汰をして居る次第であるが、一ッ其方の肚裏を當てゝ見せうか。思ふに、其方は只陽に極悪の假面を被りて、切羽詰つた間際まで、初志を

言ひ張る所思ぢやな。さて彌々土俵際に達すると、忽ち慈悲博愛の本心を打ち開け、これまでの冷酷なる外觀に駭ける人々をして、一層意外の感あらしめんとする計略ではあるまいか。して今迄其方が、科料として、これなるアントニオの軀の肉一斤を請求せるとは打つて變り、單に科料を免除するばかりでなく、やさしき慈悲の念に絆されて、元金の一部分をも免除する氣であらう。アントニオの一身には、近來不幸のみ打ち重り、さすが知名の豪商も、これには甚だ困難の模樣。此有樣を見む者は、鐵の心、石の腸、慈愛、親切の仕業には、露經驗なき野蠻國の鬼どもにても、かならず氣の毒に感ずるであらう。其方とても、よもや、氣の毒と思はぬことはあるまい。吾々一同其方の穩便の返答を待ち居るぞ。

シャイ　イヤ拙者の了簡は、兼ねて殿様に申上げた通りの事で、別に變つた所もムりませぬ。拙者は證書面の正當な科料を頂戴致す所思て、既に神様にも誓詞を立てましたぢや。若し殿様が、之を御許可にならぬとあらば、へゝ御制定の憲法も、市の自由もあつたものか。ヴェニスの市は闇になりますぞ。事に由ると、殿様には何故、拙者が三千兩の金子を受取らずして、一斤の腐肉を取らんとするか、その理由を言へと仰せらるゝかも知れぬ。が、拙者は其返答は致しませぬ。先ア拙者の道樂とても申して置きませうか――これて御得心になられましたか。例へば、拙者の家に鼠が出て困るといふのて、その鼠驅除に、拙者が一萬兩の大金を惜まぬとせば、何と致されまする。道樂とあれば、致方がムるまい――ユッまだ御得心になられませぬか。凡て世はさま〳〵の人心、

或る人は、口アングリの豚を見れば、（丸髷の豚にて卓上に臥く）胸持を惡るくし、或者は猫を見れば狂人となり、中には又管風琴が、鼻音にて呻るをきけば、尿が耐へられなくなる。詰まり好惡の念慮といふものは、感情の源泉、感情は全く之に左右せられるのでムりまするナ。さて殿様への御返事てムりまするが、御覽の通り、人間の道樂には格別の理由とてなく、何故に大口開ける豚を見て我慢がされぬか、何故に無邪氣な猫や管風琴が胸持を惡るくするか、一々理由は分りませぬ。たゞ癇癪に觸る所から、止むを得ず、惡るいと知りつゝも擯斥するやうな譯。從つて何故と申されても、拙者に於て、別に申上げるべき理由はムりませぬ。又申上げるは好みもしませぬ。先ア、アントニオに對して、或る一種の、深き怨恨と、強き憎惡とを抱き、それて斯樣な算盤の取れぬ、損な訴訟

をも致すのでムるな。これにて御得心になられましたか。

バッサ　エヽ此人非人！それが何て汝の殘忍なる所爲の答辨となるものぞい。

シャイ　フヽン、拙者は貴殿を喜ばせん爲めに、答辨する義理は有たぬ。

バッサ　氣に入らぬと言うて、それを一々殺す法は、世間にはないぞ。

シャイ　殺さうと思はぬものを誰が憎むものか。

バッサ　惡感情は、最初は必らずしも憎惡の念とは言はれぬ。

シャイ　イヤ蛇に刺されるは一度で澤山、二度は刺させぬ。

アントニオ　これ〳〵バッサニオ、相手は猶太人ではないか。海の岸邊に立ちあがりて、寄せ來る巨浪に退れと言ひ、森に彷徨ふ狼を捕へて、何故仔羊を食へるかと詰り、さては又深山の松に打向ひ、天風に吹かるゝ時にも、

高き梢を撼して颯々の音を立てる勿れと命ずるの類げにシャイロックの心を柔げんを求むる程、世にも無理なる注文は無い――此猶太人の心――これより硬きものが、そも世にあらうか。喃バッサニオ、お願ぢや。最う何の手段も、何の提議も、施して呉れるな。それよりは、成るべく迅速に事務を處理して、拙者には最後の判決を申渡し、又シャイロックには、その日頃の願望を遂げさせてやるが善い。

バッサ　汝から借りし三千兩は、これ斯の通り六千兩にして返却すが。

シャイ　その六千兩の毎一兩が、六兩づゝの價値になつても、拙者に於ては受取らぬ。拙者は是非抵當の品を取る覺悟ぢや。

公　これ〳〵他人に對して慈悲を施さずして、天の慈悲に浴する事が出來ると思ふか。

シャイ　身に疚しい事が無き以上は、何の天罰などが、畏ろしかろうぞ。貴所方が奴隷に對する御自分の處置を御覽なされい。貴所方は澤山の奴隷を買入れて居らるゝが、宛然驢馬や、犬猫を遇するやうに、賤しい、苦しい仕事をば、之に吩咐けて、虐待されるではムらぬか。その理由といふは、たゞ金子を出して買ひ入れたといふに過ぎぬ。この時、拙者が、貴所方に打向ひ、奴隷などは解放して、御息女に嫁はされよ。重い荷物の下に、汗水垂らして稼がせるは罪ぢや、不都合ぢや。奴隷の臥床は、御自分達の臥床と同じく溫柔に、奴隷の口は、御自分達と同樣に、美味に飽かせてやるが善い、などゝ申上げたなら何と致される。「奴隷は乃公の所有物ぢや、餘計な事を言はれな」と、必然返答されるに相違あるまい。拙者の返答も之と同樣ぢや。拙者が今要求する所の肉の一斤はこりや莫大の貨幣を以て手に入れたものぢや。これは拙者の所有物ぢや。所有物故それを取るに何の不思議。拙者に渡さぬとあるに於ては、法律も糞もあつたものか。ヴェニスの法令は、三文の價値も無きものとなる。こりや是非裁判にかけて戴きまする。さア返答は何とてムる。

公　アイヤ余の權利として、今日の法廷には中止を命ずるかも相分らぬ。但し此事件の裁判を依囑せる、博士ベラリオが出頭致さば又格別ぢや。

サラリ　殿樣に申上げまする。只今一人の使者が、外面に待つて居りまするが、そは同博士よりの書狀を携へて、わざ〳〵バヂュアの町より出頭致したものぢやと申しまする。

公　早う其書狀を見せい。使者を呼び入れて苦しうない。

バッサ　まア〳〵アントニオ、氣を落してくれるな。何のこれしきの事、元氣を失はぬが何より肝要ぢや。拙者の血なり、肉なり、何なりと一切シャイロックに渡した上でなくては、卿の血汐のたゞ一滴なりとも失はせる事ではない。

アントニオ　イヤ拙者の一身は病み髏へる去勢の羊、おとなしくたゞ死を待つばかりの身ではある。同じ菓實の中にても、腐りかけたのが、先頭に地に墜つる道理、拙者も早く左樣ありたい。バッサニオ卿は心靜かに樂しき光陰を送り、死んだ吾身の碑銘なりと書いてくれよ。それが卿に取りて無上の役目。

チリサ書記の服裝にて登場

公　其方はパヂュアより參つたか――ベラリオ博士の許より。

チリ　仰せの如くに仕りまする。ベラリオよりは、よしなに申せとの命に仕りまする。

と一通の書狀を呈す

バッサ　これ〳〵シャイロック、汝は何故庖刀などを磨いて居る？

シャイ　ハテ其所なる破產者どのから、抵當の肉一斤を割き取る所思て。

グラ　エヽ此慈悲知らずの犬畜生、汝の心は石ぢや砥石ぢや。庖刀の刃を心の砥石に磨ぐ汝イヤ何れほどの利刃でも、何んな人斬庖刀でも、汝の心の刃ほど、鋭いものは世にあるまい。汝の胸には、斯程の人の願も浸み込まぬか。

シャイ　フン和主などの猿智慧で、絞つた文句が身にしみて耐るか。

グラ　何ぢや、此獸類奴ッ！斯ンなものを生かして置く、政府の法律が氣

に食はぬ。往昔ピタゴラスとやらいふ奴が、獸類の魂は、時に人躰に轉宅をするものぢや、と言ふたげな。成程汝の樣子を見れば、之に贊成したくもなる。察する所汝の曲つた魂は、前世に於て必然狼などの軀に宿つたものに相違ない。その狼が、人間を害傷めし爲めに絞り殺され、程なくその魂が絞首臺より逃げ出して、汝がまだ、汚らはしい母親の胎内に轉つて居た時分に、ヒョイと飛込んだものであらう。何う見ても汝は狼の類ぢやよ。イヤに血腥くて、ガミ〳〵して、がつ〳〵して。

ミシャイ　フヽヽヽ和主がいかに口を酸くして、惡口をついたとて、別に捺した實印が證書面から消えるではなし、騷々しく怒鳴る爲めに、損ずるものは、たゞ呼吸器のみぢや。なア若輩、今少し智慧の袋でも修復して、顏でも洗つて、出直して參られぬか。さもなくば辻褄が合はなくなつて滅茶〳〵に寸斷れて了はうぞえ。拙者は裁判が濟むまでは、何事あつても爰は退かぬ。

公　この書狀による時は、ベラリオ博士は、年少にして博學なる、一博士を當法廷に推薦するとあるが、その御方は何所に居らるゝな。

ヂリ　既に當法廷の附近まで出頭致し、入廷の許可を得べきや否や、殿樣の御返答を待つて居りまする。

公　それは言ふまでもない事ぢや。誰ぞ三四人馳せ向ひて、鄭重にその御方を、御案内申せ。その隙に、一つベラリオよりの書狀を、一同に讀みきかせねばなるまい。

書記　〔朗讀〕今回閣下よりの芳書到着致し候節は、迂生生憎重病にて臥蓐中に候ひしが、幸にも閣下よりの飛脚到着すると同時刻に、弊盧を

訪問したる一年少法律博士有之、右は羅馬在住の者にして、名はバルサザールと呼び候。依而猶太人と貿易商アントニオとの間に、搆成せられたる訟訴事件を委細説明したる上、吾々兩人にて諸種の參考書などをも調査し、拙者の意見は一切同人に陳述致し置き候。元來同人の博識なるは古今未曾有と言はむも決して溢美には無之、從つて迂生の意見は、同人の掌中に入りて、更に大修正を加へられ申候。今回迂生の懇望に由り、代理人として御地に出頭致す事と相成り候へば、願くは老成の人士に對すると同樣の厚遇を與へられたく、その若輩なるを以て輕視さるゝなどのことなきやう祈上候。かゝる年少者にて、かゝる老熟の頭腦を有するものは、未だ迂生の見聞せざる所に御座候。何卒御採用相成度候。その實力は、必らず

迂生の讃辭にまして、充分發露致すべく、確信する所に御座候。謹言。

公　一同聽かれたか。これがベラリオ博士の書狀に述べたる文句ぢやー

イヤ彼所に見えたるが、その年少博士であらう。

ポルシア法律博士の服裝にて登場

いざ御手を。（と握手する）貴所は老博士ベラリオの許より參られましたか。

ポル　いかにも。

公　善うこそ御來駕、何卒それなる椅子にお掛けの程を。シテ貴所は、目下當廷に於て審議中の事件に就きて御存知なるか。

ポル　左樣、此事件に關しては、委細承知致して居りまする。さて何れが貿易商、何れが猶太人にムりまするな。

公　アントニオ、シャイロック。——兩人前に出ませい。

ポルシャイ　其方の名はシャイロックと申すか。

シャイ　いかにも、そのシャイロックで。

ポル　其方が今回の訴訟事件は、ことの外奇妙なる性質のものではある。が、いかにもその手續が正式に執行されヴェニスの法律は、之に就きて、一點の批點をも發見することは出來ぬ。（アントニオに向ひ）其方の生命は、今全然此者の掌中に握られて居るな。

アントニオ　同人も左樣申して居りまする。

ポル　其方はこれなる證書を承認致すか。

アントニオ　承認致しまする。

ポル　然らばこりやシャイロックに於て、宜しく寛仁の處置に出づべきである。

シャイ　何の必要ありて、寛仁の處置とやらに出てねばなりませぬか。それを先づ伺ひたいもので。

ポル　イヤ慈悲なるものは初めより側から強ゆべきものではありませぬぞ。音立てず降る春雨の、しつとり濡るゝ心こそ、げに人間の仁慈の姿。其功德も亦二重三重、與ふる者も與へらるゝも、均しく天慶に浴すとやら。慈悲の力は又廣大無邊、若し一天萬乘の、君主の胸に宿らむか、其光萬乘の玉を欺き、頭にかゝる王冠よりも、なか〳〵に玉座の上の君主を飾るに足るとか。げに見よ、王者の笏は、たゞ束の間の威力の示現、畏敬端嚴の假の徽號にして、偏に王者の畏るべく憚るべきを思はしむ。之に比ぶれば、慈悲の姿のさても貴や。王候の胸に座を搆へ、又天帝の心に宿を作る。王道の神道と合するも、慈悲に正義を緩める時ぞ

やさればやよ、シャイロック、其方の訴訟は、理非を糺すにありとは言ふものゝ、單り理義一方に押通さん曉には、罪深き人間の、一人として濟はるものゝ無きを忘れるな。吾々人間は皆神に向ひて慈悲を祈る。何人も口にする、かの祈禱の句は、詰まりは同胞に對して慈悲を盡せとの敎をも含んで居る。かく長々しく述べたるも、理屈づくめの、其方の訴訟を緩和めんとする余の寸志、若しも其方が飽まで主張を枉げぬに於ては、破邪顯正を司るヴェニス法廷は、それを拒む力はない。止むなく被告に對して不仁冷酷の宣告をも與へねばならぬ。

シャイ　憚り乍ら拙者は曲つた事は嫌でムる。若しも此身に不正い事でもムらば、刑罰でも何でも當てるが善い。拙者は是非法律を施行して、證書面の科料の品を頂戴せねば承知致さぬ。

ポル　アントニオに於ては、證書面の金額を拂ふ力はないか。

バッサ　右の金額は、この通り拙者が、同人に代りて即座に相渡しまする。イヤ右の金額の二倍にても苦しうムらぬ。若し又二倍にて足らぬとあらば、十倍でも拂ふ所思、これは拙者の手なり、頭なり、心臟なり、何なりと賭けて固く誓ひまする。尙ほそれでも不足とならば、そは取りも直さず、シャイロックが、全然理非曲直を度外にして、惡意を以て人を罪に陷れんとする證據、かゝる場合に臨みては、願くば便宜を以て、一時御手に法律の執行を中止致されたう存じまする。大功は細瑾を顧みずとやら、大なる善事の爲めには、些細の惡事を犧牲として、此慘忍非道の人鬼の、奸計を打破して戴きたいものでムりまする。

ポル　イヤその儀は聞き屆ける事相成らぬ。一旦制定されたる法令を、枉

げん權利を有するものは、ヴェニス市内に一人も居らぬ。若し今回之を破るとならば、忽ちそれが先例となり、之に倣へる法令違反が、陸續として市内に闖入致すであらう。その儀は何うあつても聞き屆け兼ねる。

シャイ　ヤツ畏れ入つたる明智の御言葉、こりや往古の明法官ダニエルの再來ぢや！お若いに似ぬ、この御技倆、拙者ほど〳〵敬服に堪へぬ、

ポル　時に其方に一つの依頼がある。その借用證書なるものを、一寸見せてはくれまいか。

シャイ　此……此所にムりまする。此所に……。

ポル　ハテ、シャイロック。元金に三倍の金額が、提出されて居るではないか。

シャイ　最う其儀は御無用〳〵。誓詞がしてムりまする。神樣に誓詞がしてムりまする。心靈に對して僞誓を立てゝ善いものでムりませうか。これば かりはヴェニス全體の富にも換へられませぬ。

ポル　ハテ此證書は最早期限が過ぎて居るな。法律の上より論ずれば、シャイロックは此證書を楯となし、アントニオの心臟に最も近き個所より、一斤の肉片を截り取る權利を有して居るが、それは不憫ぢや。宥してつかはせ。大目に見て元金の三倍を受取るが善い。余が此證書を裂き棄てやうか。

シャイ　證書面にある通り、奇麗に償却して貰ふた上は、裂き棄てらるゝも、棄てられぬも、そりや御隨意ぢや。見受くる所、貴所樣にはお立派は裁判官、よく法律に精通され、御解釋の條々一々確乎とした典據がある樣に存じまする。拙者は此法律に據りて、貴所樣に請求致しまする

ぢや。貴所樣は法律の擁護者として、最も恥かしからぬ御方ではムらぬか。早速裁判に御着手なされませ。憚り乍ら、いかなる人が三寸の舌を振ふたとて、一旦かくと決心した事を、取消すやうな拙者ではムらぬ。

アントト　拙者に於ても、早う判決を下さるゝやう、衷心よりお願ひ申上げまする。

ポルシャ　左ある上は彌々致方なし。いざ胸を開いて、シャイロックの刃を受けん用意をされい。

シャイロック　ヤッ天晴明智の判事樣！お若いに似ぬ無類の敏腕家！

ポルシャ　法律の主意として、證書に載せたる正式の科料は、是非之を認可してやらぬ譯にはまゐらぬ。

シャイロック　御尤千萬なお言葉――それにしても、あゝ活智明斷の見事な御腕前！御樣子のお若いに似ず、何とまァ見上げた思慮分別！

ポルシャ　それ故胸を開けませい。

シャイロック　それぢや、その胸ぢや。立派に胸と證書面に載せてある。左樣でムりますな、判事樣。心臟に最も近き個所――これが證書面の文句でムりますな。

ポルシャ　いかにもさうぢや。時に肉を量る爲めの秤器は當廷に備へてあるか。

シャイロック　拙者が斯の通り用意して參りました。

ポルシャ　時にシャイロック、其方の周旋にて醫師を一人呼んで參らぬか。出血の爲めに死なすも不憫、疵口を縫ひ合せて遣はせ。

シャイ　左様の事が證書面に指示してムりまするか。

ポル　イヤ文字には表はしてはないが、搆ふことはない。慈善の爲めに、これしきの事をしてやるが宜からうぞ。

シャイ　拙者の眼には、左様の事は見當りませぬ。證書には載せてはありませぬ。

ポル　アントニオ、其方は何ぞ言ひ殘すことはないか。

アントニオ　イヤ格別言ひ殘すこともムりませぬ。かくあるべしとは兼ねての覺悟、モー充分の準備は出來て居りまする。バッサニオ、一ッ握手をして貰はう。これがいよ〳〵永久の訣別ぢや！　拙者が卿ゆゑかゝる身の上になつたとて、悔むまい、歎くまい。拙者は寧ろ身の幸運を喜んで居る。つら〳〵世の中を見渡せば、兎角零落た者が、徒らに生命長く、凹め

シャイ「左様の事が證書面に指示してムりまするか」

る眼、皺寄る額をかゝへて、老齢の貧苦を泣くが常習。然るに拙者が、かゝる切ない憂目を逃れたは、何ぼう難有い事であらう。令閨にはよしなに依みまするぞ。その折はアントニオが臨終の模様をも語られよ。又卿に捧げし拙者の愛情の濃さ、之もわが亡後にて懇ろに告げられよ。軈て始終の物語が濟みたらば拙者がバッサニオの親友たる資格の有無、是非令閨に判斷させて見るがよい。卿はたゞ世に誠意ある親友の一人失せたを悔めばよい。拙者に於ては卿の爲めに借財を拂ふのを更に悔みは致さぬぞよ。シャイロックが何れ程深く切らうとて、この赤心は早くより卿に捧げたもの、今更別に惜いとも思はぬ。

バッサ　アヽ辱ないぞい、アントニオ、余は生命にも換へ難き、立派な妻を持ちは持ちたれ、この生命も、この妻も、又全世界も、大事な卿の生命には

換へられぬ。是等凡てを皆失ひ、凡てを此人鬼にさゝげるとも卿の生命を取り留めたい。

ポル　これ〳〵其方は左樣の事を申せど、若し其方の妻が聽いて居たなら、餘り難有くは思ふまいぞ。

グラ　小生とても御同樣、新たに持つた宿の妻、可愛にはきまつて居れど、何ンの女房一疋、死んでも惜しくは思ひませぬ。肉躰を離れし妻の亡魂が、此畜生の心を入れ換へる効能でも持つて居るなら、小生に取りて此世の本望。

チリ　其樣ナ事は女房の蔭で言ふが善い。さなくば飛んだ風波が一家の裡に起らうぞえ。

シャイ　〔旁白〕耶蘇教徒の亭主振りは、斯うも薄情なものかなア。拙者とて

娘を一人持つ身ぢやが――イヤこれにつけても娘奴が、耶蘇信者などを亭主にせず、寧ろ穢多の悴でも亭主にしてくれゝばよかつた。――イヤ下らぬ事に隙を費して居る。早く宣告を下して戴きまするぞ。

ポル　貿易商アントニオの肉一斤は、確かに其方のものぢや。右は法廷が宣告するのぢや。國法が認可致すのぢや。

シャイ　何と曇りなき判事樣の御判決！

ポル　シテ其方は、その肉片を被告の胸部より截つて取らねばならぬ。右は國法が認可致すのぢや。法廷が宣告致すのぢや。

シャイ　何と博識な判事樣のお判決！さア法廷の申渡してあるぞ！用意せい。（とシャイロック進み寄る。ポルシア二人の間に割つて入る）

ポル　アイヤ少時待てい。今少し申し渡すべき事がある。此證書に據れば、

血は一滴たりとも其方に遺すことになつて居ぬ。證書の文字は明白に「肉一斤」とある。其方は此抵當を受取るがよい。肉一斤を受取るが善い。されど、之を截り取る際に、若し貴き血汐の、たゞ一滴たりとも流すが最後、ヴェニスの法律に照らして、其方の家財田園の全部を沒收して市の財産と致すぞ。

グラ　ヤッ何といふ、曇りなき判事樣の御判決！よく聽け猶太人、何といふ博識な判事樣のお技倆！

シャイ　それが、法律に御座りまするので……。

ポル　おゝ其方自身にて條令を讀むが善い。其方は飽まで理非の判決を主張致した。因て其方の思ひ存分、イヤ其方の存分以上に判決してつかはす。

グラ　やア何といふ博識な判事さまの御技倆！よく聽け猶太人、何といふ博識な判事樣の御技倆！

シャイ　エー然らば、拙者は、彼の男の提議に應じまする。元金の三倍を拙者の手に收めて、アントニオは放してやりまする。

バッサ　その金子ならば爰に在る。

ポル　控へませい。シャイロックには、飽までも法律の鑑にかけて裁判して遣はす。決して早まつてはならぬ。抵當の一品の外には、何物をもシャイロックに渡すこと相成らぬ。

グラ　ヤイ猶太人！何といふ曇りなき判事樣の御判決！何といふ博識な判事樣！

ポル　斯樣の儀故、さア早く肉片を截り取る準備をせい。が、血は滴すな。又

截り取りたる肉は、正味一斤を越えても相成らぬ。不足でも許さぬ。若し一斤の量に過不及あらば、縦令其差異の分量が、一匁なりとも、又一匁の廿分の一なりとも、イヤ秤器の上に、毛髪一筋の誤差が見えやうとも、其方の生命は亡きものと知れ。又其方の財産は沒收と覺悟せい。

グラ　ヤツ往古の明法官ダニエルの再來！猶太人、確かにダニエル！さア悶いても暴れても、汝は俺の掌中のものぢや。

ボル　シャイロックは何故に躊躇致すぞ。早う抵當の品を受取るがよい。

シャイ　ては元金を渡して戴きたいもので。拙者はモー歸りまする。

バッサ　元金ならば、殘らず耳を揃へてある。さアこれぢや。

ボル　アイヤ彼者は、一旦官府の法廷に於て、それを拒絶致した。與ることならぬ。飽まで法律に糺して、抵當の品を受取れい。

グラ　こりや何うしてもダニエル！往古の明法官ダニエルの再來！猶太人汝はよく俺に此甘い文句を敎へて呉れた。

シャイ　たゞの元金ばかり頂戴する事もなりませんで？

ボル　其方は抵當の品より外に何物も受取ることは相成らぬ。先刻申した通り、生命賭けにて受取るがよい。

シャイ　エヽそれなら何も用らぬ。棄てると燒かうと、御勝手にされい。モー拙者は斯樣な所に留まつて論判などは致さぬ。

ボル　イヤ待て猶太人！其方はまだ〳〵法網を脫れることは相成らぬ。ヴェニスの法律の規定する所によれば、若し其方如き他國人がありて、直接若くは間接に、市民の生命に危害を加へんとせる事實が、明白なる場合には、第一、其者の爲めに害意を挿まれし市民は、其者の財産の

一半を沒收すべき事、第二、財産の殘る一半は國庫の機密費中に繰入れらるゝ事、第三、其犯罪者の生死は、一にヴェニス公の權内に屬し、他の何人も之に對して異議を申立つる權利なき事。――かく規定されて居るのぢや。然るに其方は正に此狀態の下に立ちて居る。訟訴手續によりても一見亮然たるが如く、其方はだゞに間接のみならず、直接にも亦これなる被告の生命を奪はんと致した。其方は、かくして前段余が申渡せし如く、一身の危險を招いたのである。さらば畏れ入つて、殿樣の御慈悲を哀願するがよからうぞ。

ダラ　ヤイ、シャイロック、首でも絞らせて戴くやうに歎願せい。が、汝の財産は、悉皆官府に沒收されて居る事故、首絞りの繩一筋にも困るであらう。因て汝は官府の費用を以て絞罪に處してやらねばならぬ。

公　シャイロック、余は、吾等官民の精神が、汝等猶太人と異なる所を見せん爲めに、態と汝の命乞に先立ちて、汝の生命を恕して遣はす。次ぎに汝の財産の半分はアントニオの所有に歸するのぢや。又他の一半は國庫に沒收すべき筈であるが、若し充分、謝罪改心の上は、たゞの罰金にて宥してつかはす。

ポル　分つたか。それは官府に沒收すべき分の事であるぞ。アントニオに對する分でないぞ。

シャイ　エヽ、拙者の生命も、何にもかも、皆取りあげて貰ひませう。家を支へる爲めの大黑柱を除られては、家を取られたも同樣、生計を立てる財産を沒收されては、生命を奪はれたと變りはない。

ポル　アントニオ、其方は何ぞシャイロックに對して、宥すべき條がある

か。

グラ　首絞りの縄一と筋は無代で遣はします。其他何にも遣はしてたまるものか。

アントニオ　畏れながら申上げまする。只今の御言葉にては、同人が財産の一半に對して罰金を課すると申すことでムりまするが、若し殿樣並びに法廷におかれて、之を御免除になるならば、拙者に於て、此上もなき僥倖に存じまする。但し、之につけては、財産の、他の一半を拙者の手に保管致し、シャイロックの死後、同人の娘の婿に讓るといふ條件を附したうムりまする。尙は他にも、二個の條件を附したいと愚考致しまする。第一は、かゝる寛仁の處分を受けし報酬として、シャイロックが耶蘇敎に改宗致すこと。第二は同人所有の財産全部をば死後ロレンゾ及び

娘ヂェシカに讓與するといふ證書を、即刻當法廷に於て認むる事——右の個條御聞届けの程を願ひたうムりまする。

公　承知致した。シャイロックには是非その通り施行致させる。さもなきには於ては余は先刻申渡したる大赦の次第を、一切取り消すことゝ致す。

ポルシャ　シャイロック、其方は之に對して、不服の點はなきか。返答しませい。

シャイ　不服の點は——ムりませぬ。

ポル　書記はあるか。今述べし、財産讓渡の證書を認めませい。

シャイ　拙者は早く退廷を許されたうムりまする。氣分がすぐれませぬ。右の證書は後刻御届けくださらば、それに拙者が調印致すてムらう。

公　退廷致して苦しうないが調印の儀は間違ふな。

グラ　イヤ汝のやうなものでも、洗禮されて神の子の仲間入りか。若し此

グラチアノが判事であつたなら、汝などは絞首臺に連れてまゐり、亡者の仲間入りをさせる所であつた。

と シャイロック退場

公　時に博士、これより自邸へ御來臨、會食の儀を願ひたいものであるが

ボル　難有き仕合せにムりまするが、其儀は御免蒙りたう存じまする。拙者は今夜の内にパヂュアに向つて出立せねばならぬ身、即刻發足の手筈にムりまする。

公　イヤ御都合が許さぬとありては、誠に遺憾ながら止むを得ませぬ。アントニオ、其方は此御方に對して、懇ろに謝禮を致さねばなるまいぞ、余の見る所によれば、此御方は其方に取りて、一方ならぬ大恩人であるぞよ。

と公爵及び其隨員退場

バッサ　只今殿樣の申されましたる通り、拙者幷びにこれなる友は、本日貴所樣の賢明なる御裁斷のお蔭を以て、世にも畏ろしき刑罰から脱るる事が出來ました因て聊かその御禮のしるしとして、猶太人に渡すべき筈の三千兩、これを貴所樣に捧呈致したき寸志にムりまする。

アントニオ　尙ほ難有き御恩の程は、未來永劫、肝に銘じて、仇おろそかには思ひませぬ。

ボル　アイヤ何人に取りても、心の滿足が何よりの報酬、拙者は卿の急を救ふたのが、それが何よりの滿足と思ふて居る。この滿足丈にて充分ぢや。決してこれ以上に慾得を欲する人間ではムらぬ。イヤ何れその中、又御面晤の機會もあらば、何卒お見忘れなきやう願ひまする。御兩

所御機嫌克う――今日はこれにてお暇致す。

バッサ　それぢやと申して、このまゝでは氣が濟みませぬ。謝金とはせず、だゞ聊か拙者どもの感銘の徽號として、心ばかりの紀念の品物をお收めくだされませ。他に面倒な事は申上げませぬ。だゞ贈呈の品を御收めの事と、拙者の無理を大目に見て戴く丈の事は、是非許して戴かねばなりませぬ。

ポル　それほど強てとのお望ならば止むを得ず、御言葉に從ひまする。（アントニオに向ひ）卿よりは、その手袋を頂戴致したい紀念として長く使用することに致さう。（バッサニオに向ひ）又卿よりは、折角の御好意に甘えて、此指輪を頂戴すると致さう。アレさう御手を引き込めなさるな。その他の品は、何にも取りはしませぬ。友誼上、よも、これしきの一

品を御拒絶にもなるまい。

バッサ　イヤ此指輪でムりまするか。これは、ソノ極めて取るにも足らぬ下等の品で、斯樣の物を差上げては耻辱になりまする。斯ンなものは差上げる譯には參りませぬ。

ポル　拙者は此一品を除きては、他に何にも戴きませぬ。何うやら拙者は、その指輪が氣に入つて參つた。

バッサ　イヤ品物の價値よりも、此指輪には別に關係せる來歷がムりまする。此品の代りに、拙者はヴェニス市中最高價の指輪を送呈致したいと、これより直に廣告致して、その搜索に取りかゝりませう。だゞ此指輪ばかりは、何卒お見遁しを願ひたうムりまする。

ポル　こりや中々口頭だけ、御氣前の善い御方でムるナ。卿から先づ物乞

ひをせいと、拙者に敎へて置きながら、さて次ぎに、物乞ひを謝絶る方法を御敎へになる。

バッサ　イヤ實は、これなる指輪は妻からの贈物、手づから指に嵌めて呉れながら、拙者をして決して賣らぬ、與らぬ、失はぬとの、誓詞を立てさせましたので……。

ボル　それは誰しも贈物を遁るゝ時の慣用の口實。若しも御令閨が狂人でなく、拙者が充分此指輪を受くる丈の功勞があると知らば、指輪一個を呉れたとて、よもや、飽までも敵意を挿むことはムるまい。イヤこれにて、お暇いたす。

とボルシア及び子リサ退場

アントニオ　バッサニオ氏、その指輪を遣はし玉へ。同人の功勞と拙者の友誼と、双方合躰したなら、秤器にかけて、令閨の命令よりも、些少は重くなつて善からうが。

バッサ　然らばグラチアノ、早く驅け出して追及いて呉れ。シテ此指輪を渡した上は、成るべく、アントニオ氏の邸宅まで、あの御方を同道致して參るが善い。さ急いで〳〵。

とグラチアノ退場

さてこれより卿と拙者とは、早速貴宅まで引上ると致さう。かくて明日は未明、二人揃うてベルモントの、天をばさして一足飛び。さア御座れアントニオ。

と退場

第二場　同上　街頭

ポルシア及びチリサ登場

ポル　其方はこれより猶太人の家を捜しあてゝ、此證書を渡し、調印をさせて來るが善い。それの濟み次第、今夜の中に此地を後にし、良人だちよりも一日早く歸宅ると致さう。此證書はロレンゾに取りて何よりの土産であらうぞ。

グラチアノ登場

グラ　アヽ善い處で皆樣に追ひつきました。實はバッサニオさまに於て、其後尙ほ熟考の上、これなる指輪を貴所樣に御贈呈致すことに相成りました。それから又是非貴所樣を、會食に御招待申せとの命令にムりまする。

ポル　會食の儀はお斷りを申すが、指輪は難有く頂戴致しまする。その旨宜しくバッサニオ氏に申上げて貰ひまする。それから卿に一ッ依頼がある。これなる少年をシャロックの宅まで案内してくれまいか。

グラ　畏りました。

チリ　旦那樣に一ッ申上げる儀がムりまする。〔ポルシアに向ひ旁白〕妾は、良人の指輪を貰へるか、一ッ試して見まする。あの指輪は決して人手に渡さぬやう誓はせた品でムりまするが。

ポル　〔ネリサに向ひ旁白〕必然與れるであらうぞ。やがて歸宅の上は、他人に指輪を遣はした件をきびしく責めて、面目を失はせ、思ひのまゝ言ひ負かしてやらうわいな。

〔高聲に〕さア早く行つてまゐれ！拙者の滯在致す場所は例の所であるぞ。

チヲ　それならシャイロックの宅まで御案内を依みまするぞ。

と一同退場

第五幕

第一場　ベルモント　ポルシア邸の入路

ロレンゾ及びヂエシカ登場

ロレンゾ　ほんに見事な今夜の月、風はなよ〳〵樹の枝を、鳴らさぬ程になつて行く。――斯かる夜半かや、たゞ單り、トロイの城に登り行き、敵の陣所を眺めつゝ、いとし、戀いしのクレシダが、歸らん時はそも何時ぞと、かのトロイラスが待ちわびしは。（トロイラス、クレシダの物語は大に中世に行はれ、多くの作者之を詩材とせり。クレシダはトロイ人カルチャスの娘、その戀人トロイラスを棄て、敵のヂオメードに戀着す。不貞女の標本なり）

ヂエシカ　かゝる夜半かや、とぼ〳〵と置きたる露を踏みしだき、忍び寄る身のたゞ前に、チラと見えたる獅子の影。キャット一聲、前後も忘れ少女シ

スペの逃げたるは、（ピラマス、シスペの物語はオビドに出てたり。兩人月夜密會を約し、シスペ女先づ指定の地に行けるに獅子躍り來る。シスペ驚愕の餘上衣を落して逃ぐ。後刻ピラマス來り、シスペの破衣に血痕の附着せるを見、以て死せりとなし自殺す。シスペ再び來りてこの樣を見るや、全じく自殺す）

ロレンゾ　かゝる夜半かや、失戀の柳の枝を携へて、荒磯の上にたゝづみて、あはれわが君歸りませと、女王ヂドーが泣きたるは。（ヂドーはカルセーゾの女王也。エーチアス王トロイ落城後カルセージを過るや女王見て戀着す。エーチアス顧ずして伊太利に去る。女王失戀の餘燒死す。ヴァージル、チョーサー等之を詩材とせり）

ヂェシ　かゝる夜半かや、衰へし老父の身をば若き身に、かへす力の仙草を、メヂア女郎が拾へるは。（この物語もオビドに出てたり。メヂアは魔術女也に希臘に走り、ヂェーソンの老父エーソンをば靈藥の力もて老衰の境より、若き身に回復せしめたり。中に月下仙草を採集する件あり。）

ロレンゾ　かゝる夜半かや、こそ〳〵と、一文無しのロレンゾに、心中立てして

ヴェニスから可愛いヂェシカが驅落したは。

ヂェシ　かゝる夜半かや、わが戀は行末かけてかはらじと、口は調法嘘つきの、ロレンゾといふ若者が、少女ヂェシカを迷はしたるは。

ロレンゾ　かゝる夜半かや、美しい顏をしながら口惡るく、良人を尻に敷くヂェシカ。されど良人はお人よし、格別それを氣にもせず、サラリと水に流したといふは。

ヂェシ　其樣な事の言競なら、一夜かゝつても負かしてあげるが、誰ぞ來る樣子故止めるとせう。アレ人の足音がしますわいな。

ステファノ登場

ロレンゾ　これ〳〵此鎭まり返つた眞夜中に急いでまゐるは誰ぢや。

ステ　御存知の筋でムる。

ロレンソ　ナニ御存知の筋！何ンな御存知ぢや。名告つて貰はうぞ。

ステ　何を隠さう拙者はステファノ。實は夜の明けやらぬ中に、奥様が御歸宅致さるゝ趣、傳令として參りました。今迄奥様には、所々の霊場を御巡歴、赤心こめて主公と、御同捜の期の早まるやうにと祈願をかけて居られましたのでムる。

ロレンソ　シテ奥様のお同伴の方は何誰であるな。

ステ　一人の世捨人と、その腰元と、たゞ三人のみでムる。時に主公には、まだ御歸宅にはなりませぬか。

ロレンソ　まだ歸宅られぬ。書狀さへまだ戴かぬ始末ぢや。兎に角デェシカ、早く内へ入らう。そして奥様の御歸宅を祝する爲めの、何ぞ準備でも整へやう。

ランセロット登場

セラン　テトー！〳〵〳〵！ウァハ、ホー！テトー〳〵！（飛脚の吹く號角の口眞似）

ロレンソ　誰ぢや怒鳴り居るは？

セラン　テトー！和主はエレンゾ氏と同夫人とを御覽になられぬか。テトー〳〵！

ロレンソ　これ大將怒鳴るのは廢せい。爰に居る。

セラン　テトー！何……何れに居らるゝな。

ロレンソ　爰ぢや。

セラン　只今主人より派遣されたる一人の飛脚が、お目出度き消息を號角に山盛りに致して參つた。その旨ロレンゾ殿に傳言を依みます。主人儀は、未明前に爰に到着される筈。

ロレンソ　てはヂェシカ内へ入つて、皆様の御歸宅を待つと致さう。イヤこのまゝて差支があるまい。内へ入る必要も無からう。ステファノ氏、貴公が一ツ内へ入つて奥様が間もなく御歸宅の旨を、一同に傳へてくれまいか。序に貴公の樂器類を屋外へ持ち出して來るがよからう。

とランセ退場

とステファノ退場

それにしても、此岸に眠れる月影のさても凉しい事ではある。吾等二人はこの所に腰を下して、徐ろに風が齎らす樂聲に、耳を貸さうではないか。萬籟皆鎮まりて夜の幕の天地を包める時は、妙にさえ亘れる音樂の諧調と適合するものぢや。さァヂェシカ腰をかけるが善い。大空には、燦然たる星が一杯、一面に磨きあげたる金盤を鏤めたる姿てあ

る。然るに是等の天躰の中にて、卿の眼に入る最小のものにても、その運行の際には、天使の如く妙なる聲を立てぬはなく、長へに眉目美しき天童と合奏を致して居るのぢや。（天體音樂說はピタゴラスに出てたり）斯る音樂は人間の頭腦の裡にもあるものゝ、汚れし腐肉もて包まるゝ故、人間は、それを耳に聽くことが出來ぬ。

音樂手多勢登場

さア一同讃歌を歌ふて嬶娥の睡眠をさましてくれ。それから一ツ極めて優美な一曲に、奥様のお耳を扶ぐり、音樂の魔力でお邸宅に引き寄せて貰はう。

ヂェシカ　妾は、優さしい音樂を聽く間、毎々精神の浮き立つことはムりませぬ。

ロレンゾ　それは卿が餘まり音樂に身を入れすぎるからではある。動物までその通りぢや。かの戲舞好の牛、惡戲盛りの小馬などの羽目を外して跳躍抃舞、高い聲で、吼えもし嘶きもするのは、それは彼等の血が湧き立てる平生のこと、若しも喇叭の響とか、音樂の曲とかゞ、彼等の耳に入るが最後、一疋殘らず、バタとその脚をどゞめて了ひ、その野蠻い眼は、いつか、穩和しい睇視となる。實に音樂の魔力は大きいものぢや。されば昔の詩人の作にも、希臘の樂人オルフェアスが音樂の力にて、樹木をひき寄せ、石や潮を動かしたといふ作話があるげに音樂ならでは、かくも無神經な、かくも頑冥にして凶猛なるものを、少時なりとも動かす事は出來ぬ。人にして音樂の素養なきもの、又朗々たる合奏に感動せざらん程のものは、其の人は必らず叛逆を企て、隱謀をたくろみ、

又强奪を行ふに相違なく、且つその精神の活動は、暗夜の如く遲鈍に、又その愛情は陰府の如く暗黑なるものに相違ない。かゝる人物は決して信任してはならぬ。ヤあの樂聲！

ポルシア及び子リサ登場

ポル　彼所に見ゆるは、邸の廣間に燃ゆる燈光ぢやな。それにしても、さばかり小さい燭火のよくもかく遠方まで燦めいては見える。善き行爲の世を照すも、またこの類ではあらうぞえ。

子リ　先刻月の明かつた折には、蠟火の光は、眼にも留りませなんだに。

ポル　それは、大なる譽の前に、小い譽の隱れると同じ譯ぢやわいな。例へば總督などゝいふ者は、國王の居ぬ中こそ、ゆゝしい威光を有ちもすれ、國王の傍に立てば、忽ちに火の消えし面持して、威儀も、權柄も、青海

原に注ぐ小河の、あと白浪となるならひ。――アレ〳〵あの樂聲！

チリ　奥樣あれはお邸の音樂でムりまする。

ボル　これにつけても、チリサ、四邊の景物といふものは、さて何事にも肝要ではある。畫の眞中に聽くよりも、ずッと優美に聽かるゝぞいな。

チリ　奥樣、これは全く靜謐のお蔭でムりまする。

ボル　ホンに雲雀も鴉の聲も、耳をすまさねば格別の差別はないかも知れぬ。不如歸なども若しあれが、濁聲を立てる鶯鳥の群と同じく、畫中に歌ふものなら、或は鷦鷯以上の美音とも讃されまい。その他大概いかなるものにても、時節と場合の配合が肝要、配合がついてこそ、初めてその名に負かぬ長所もあらはれ、眞の價値も出はする。――ア一寸音樂を止めるがよい。月は今、雲の帳にエンジミオンと添臥の夢まど

か。（エンヂミオンは希臘の美少年、或る夜ラトマス山頭に眠れる時、月の女神之に戀着せる故事あり。キーツの「エンヂミオン」を見よ。）

と樂聲止む

ロレンゾ　あれは確かに奥樣の御聲、よも間違はなき所思。

ボル　緣起のわるき聲をたよりに、盲人も郭公をしるとやら。善うもお當てになられたもの。

ロレンゾ　奥樣には何のお變りもなく、お目出度く存じまする。

ボル　今まで良人達の無事を祈つて居りましたが、お蔭で多分良人達も息災に歸つてくれまするわいな。まだ爰には見えませぬか。

ロレンゾ　イヤまだお歸宅にはなりませぬ。尤も最前一人の使者が參つて、追ッ付御歸宅の旨を觸れて參りました。

ボル　チリサ、早う内へ入つて、一同の者に、身達が不在をしたことを、口外

せぬやう申付けるが善い。ロレンゾ殿、卿にも依みまするぞ。チェシカ殿にも。

と喇叭の囃子聞ゆ

ロレンゾ　アレ旦那樣が最う附近に見えました。喇叭の響が致しまする。口外するなとの仰に就きては、それは決して御配意には及びませぬ。私どもは、さまで饒舌家でもムりませねば。

ポルシア　ハテ今夜は、宛かも日光のかすけく照らす晝のやうではある。たゞいさゝか蒼白いまで。日の影の雲隱れせる日はかくもあらうか。

パッサニオ、アントニオ、グラチアノ其他隨員登場

パッサニオ　アイヤ、ポルシアといふ光君が運歩を移して居らるゝ中は、よし日の影は見えずとも、世界に闇はありませぬ。

ポルシア　光君ならよけれども、家を預る妻の身に、暗い行爲は何より禁物、妻の身が暗ければ、良人の胸は曇り勝ちとやら。大切なこちの人に、左樣の事はさせられませぬ。とは言ふものゝ萬事は神の御司配――先づ〳〵何のお變りもなく、お目出度存じまする。

パッサニオ　懇ろな卿の言葉、辱うムる。先づわが友に挨拶をなさるゝが善い。この御方こそ、拙者にとりて海岳の恩人、アントニオ氏でムる。

ポルシア　ホンニ貴郎の受けたる御恩は、並一と通りのものではないぞいな。貴郎故にアントニオ樣は、飛んだ御迷惑をなされたとやら。

アントニオ　イヤその迷惑は何であらうと、最早濟んだ後の祭。

ポルシア　何はしかれ、善うこそ御來訪被下れました。言葉の端などには、とても述べ盡せぬ御鴻恩、實地の御禮を致しますわいな。

グラ　〔子リサに向ひ〕御空の月も照覽あれ。卿は餘り邪推深い。全く拙者は彼の品を判事殿の書記生に遣はしたのぢや。さう卿に眞劍に食つてかゝられる位なら、あの書記生奴、去勢でもして居れば善かつたと思ふ。

ボル　卿達はモー喧嘩して居るか。何う致したと申すのかいな。

グラ　ナニ指に嵌める金の箍で、彼女が拙者に渡した安物の指輪の一件で。われを秘藏せよ、見棄て賜ふなどゝ、鍛冶屋が刃物に彫りつけると同一文句が彫りつけてあつた奴で。

子リ　文句が何うの斯うのと、其樣ナ事を言ふたとて、何の役に立ちますぞえ。妾が彼品を和主に與げた時、和主は何と言ひました。――死ぬ日まで決して此指輪は手離さぬ。死なば一所に墓に入れると言つたてはありませぬか。妾の事は、そりや、何うなりと構はねど、此猛烈い誓詞の手前に對しても、少しは遠慮して、彼品を大事にして善いではムりませぬか。――彼品を判事どのゝ書記生に與れましたとえ！誰が左樣の事を眞實と思ふものぞいな。和主が指輪を遣はした書記生とやらは、生涯その顏面に髭の生えぬ、可愛らしい御方であらう。

グラ　ナニ生えなくて何うするものか！若しあの若者が大人になるまでの壽命を有つて居さへすれば……。

子リ　イヤ婦女が男子になるならばでムンせうが。

グラ　ハテ疑念深い。拙者は確かに此手で、彼品を一人の若者に與れたのぢや。その若者といふは、まだ乳臭い小僧殿で、躰軀が小さくて、身材は先づ卿位で、判事殿の書記生で、口數のいかにも多い奴で、彼品を骨折

賃として惜しいとねだる。拙者は人情として、それを拒絶り兼ねたのぢや。

ボル　こりや遠慮なく申したなら、卿の罪狀は遁れませぬ。妻よりの最初の贈物を、さう輕々しく他人に遣すといふ法はありませぬ。其品は、誓詞と共に、卿の指に嵌め、行末かけてかはらじと、卿の肉に固着けたのではムりませぬか。妾とても同じく、わが良人に指輪を贈りて、ゆめゆめ之を見棄て玉ふなと、固い誓約をさせました。良人はこれ爰に居られる。か、良人に限りては縱令世界の富と交換すると言はれても、よもあの指輪を取るの、與るのとは仰せられまい。喃グラチアノ殿、卿はホンに妻に對して苦勞の種を與へたぞえ。若しこれが妾の事でもあつたなら必然氣でも狂ふわいな。

バッサ　〔旁白〕このやうな事になるなら、左の手でも切り去つて、指輪を防禦の爲めに、之を失つたと申す方がよかつたらう。こりや飛んだ事になつたわい！

グラ　イヤ指輪を與つたのは拙者ばかりではムりませぬ。バッサニオ樣も判事どのに指輪を望まれて、到頭それを遣はされました。また實際指輪を遣はすべき價値がムります。すると書記生の小僧も、何ぞ筆記の事に骨折つたといふを口實に拙者のを所望致した。兩人とも指輪の外には、何物も受けぬと申すのであるから致方がムりませぬ。

ボル　貴所は何の指輪をお遣はしになられました。よもや妾より差上げし、あの結納の指輪ではムりますまい。

バッサ　卿にさう言はれると、結納の指輪ではないと申したいが、今更嘘を

吐いて過失の上塗は出來ぬ。何を隱さう、卿の見やる通り、指には最早あの指輪は嵌つて居ぬ。

ポル　すりや指輪の無きは心に信實のなき證據。何事ありとて、あの指輪を見るまでは、貴郎と添臥はしませぬぞえ。

チリ　妾とても同じ事、妾の指輪が戻らぬときは、和主と枕はかはさぬぞえ。

バッサ　アレさう早まつて呉れるな。これには充分譯があること。指輪を與れし先方の人は誰、又それを贈らせたものは誰、又それを贈つた理由は何。して又指輪ならでは、何物も受取らぬと主張されし時の拙者の澁り樣。――是等前後の事情を詳く承知された上は、卿の立腹も必然和ぐてあらう。

ポル　こはお言葉とも覺えませぬ。若しも貴郎が、あの指輪の眞價を御存知あらば、又あの指輪を贈れる妾の半分の眞價、さては又、あの指輪に對して固く誓はれし貴郎の名譽、是等を御心にとめて居られたなら、貴郎は決して、あの指輪を手放すべき筈てはムりませぬ。若し貴郎さへ確乎して、熱心こもれる辭句に、飽まで拒絶されたなら、それでも尙ほ、この結納の品をと、達て言張る程押のつよい沒曉分漢は、よも世の中にはムりますまい。チリサ、汝はよい所に氣がついた。こりやまさしく、何所ぞの姫御前に、あの指輪をお與りになつたに相違ない。

バッサ　こりや酷しい邪推、拙者はわが名譽にかけ、イヤ二ッなきわが靈魂にかけて誓ひませう。拙者は決して、婦人の手などにあの品を與りはせぬ。指輪は確かに法律博士の方に贈つたのぢや。同人は拙者より贈

呈せんとしたる三千兩の金子には目もくれず、是非あの指輪をとの懇望。されど拙者は、一旦はそれを拒絶した。友の生命の親てあるにも係らず、拙者は忍んで、同人が不興の顏して立ち去る所を見て居つた。が、その時の心苦しさ。拙者は終に使者を送つて、同人を追はせた。外聞と禮儀との二ッの念に壓倒された。丈夫の面目にかけても、忘恩の行爲を敢てすることが出來なかつた。かゝる次第であるから、何卒大目に見のがして呉れよ。清らかなる光を放つ、御空の星辰に對しても誓詞を立てる。卿とて若し現場に居つたなら、受合つて、指輪を脱して、かの博識の博士にそれを贈れと歎願したであらうぞ。

ボル　其法律博士とやら、滅他に此附近に近寄らせぬがよい。妾の爲めに大事の指輪、又貴郎とて、大事に持つと誓はれた品、それが今此の法律博士の手に入つた上は、妾とて御同樣に、任意に振舞はんで何としよせう。その博士のいはるゝまゝ、何物なりと遣はしまする。この躰軀も、又枕幷ぶる良人の床も皆其人に貸してやる。その中この御方とは是非懇意の仲となるほどに、餘程御用心なされて、一夜も不在をせぬやう、お氣をつけなされませ。蚤取り眼に張番をなされませ。若しさもなくて、妾の自由にしておくなら、妾が何をすると思召す。まだ疵つかぬ婦女の操にかけて、確かにその博士の閨房の友となつて見せますぞえ。

チリ　妾は又その書記生と連添ふぞえ。氣をつけて見張つて居らねば、何のやうな事をするか知れはせぬ。

グラ　フム左樣の事をするなら、して見るが善い。書記生奴、俺樣の手にか

ゝらぬ用心が肝腎、一旦かゝるが最後、そのペンを碎いて呉れる。

アントニオ　アイヤ皆さまの爭論の根源は皆拙者に在る。

ポルシア　その御配慮は御無用にムりまする。何事によらず貴所樣の御來臨は歡ばしう存じまする。

バッサニオ　喃ポルシア、今回の過失は萬止むを得ずして犯せる過失、何卒大目に見遁して呉れよ。余は臨席の諸氏の聞かゝる面前にて誓詞を立てやう。わが妻の映りて見ゆる、涼しき卿の兩眼にかけて……。

ポルシア　何と被仰る！妻の兩眼には、一方に一個づゝ、貴郎の妻が二個映れる筈、舌を二枚に使はるゝ貴郎のお言葉、ハテ信用のおけることてはあらう。

バッサニオ　アレさう言はれずに、聽いて呉れよ。今回の過失のみは宥して呉れ。

拙者の二ツなき靈魂にかけて誓言致す。モー二度と卿に對する誓詞は破らぬ。

アントニオ　實は奥樣、拙者はバッサニオ氏の出世を望むあまり、この一身を貸してあげました。之が爲めに不幸の淵に陷りて、最早最後と見えたる所を、救うて呉れしはかの博士、即ち御良人より、貴重な指輪を贈つたその人てムりまする。拙者は今一度御良人の爲めに、この掛換なき魂をかけて、決して故意に、二度と誓詞を破らぬ事を保證致しまする。これにて何卒今回の所は御勘辨ありたきもので。

ポルシア　それなら貴所樣に保證人の役目をお依み申しまする。さア何卒此指輪をバッサニオに遣はされ、先きの品より大切に所持するやう、申しつけて戴きたうムりまする。

アントニオ　さアバッサニオ氏、この指輪を失はぬやう誓言なされい。

バッサニオ　ヤ……こは意外！これは確かに拙者が博士に贈りしと同一品。

ポルシア　其指輪は博士から貰ひ受けましたし。許してたもれ、バッサニオぬし。

この指輪のお蔭にて、妾と博士とは添臥した。

グラチアノ　グラチアノ殿にも妾の罪を宥して戴きまする。博士の連れてまゐりし、あの青二才の書記生は、この指輪のお禮として、妾と昨夜うれしい夢を見たわいな。

グラ　何んぢや忌々しい！まるで日和つゞきの夏の眞中に、惡るくもない道路の普請するやうな話。罪譴もないのに、女房を横奪されて間尺に合ふものか。

ポルシア　アレさうガミ〳〵亂暴い事を言はるゝな。貴所方は皆眼を眩して

居られる。先づゆる〳〵、これなる書狀なりとお讀みなされませ。これはパヂュアなるベラリオ老博士より參れるもの、これさへお讀みになるならば、かく申す妾が、即ちかの法廷に出でし博士、又ネリサがその隨行の書記生であつた次第が、委細明白になりまする。又ロレンゾぬしにお聽きなされても分りませう。妾は貴郎方に續いて家を出で、漸く今立ち戻つたばかり。まだ家の内へも入らぬ所でムりまする——先づ〳〵アントニオ樣、善うこそ御來臨くだされました。貴所樣には、思ひの外の吉報を山ほど齎らしてまゐりました。早う此書狀をお開けあそばせ。書狀の中には、貴所さまの船舶が、三艘までも、高價の貨物を滿載して、俄かに着港した事が載せてありまする。この報知が、いかなる不思議の事にて、妾の手に入つたか、それはわざと申上げずに

おきまする。

アントニオ　これは〳〵、げに驚歎の外はない。

バッサリオ　すりや卿があの博士で、それを身が知らずに居たのであつたか。

グラシアノ　卿があの書記生で、それが拙者の女房を盗みかけたのであつたか。

ネリッサ　ハイ、併し、あの書記生には女を寢取る氣はないぞえ。男にはなれぬ身ぢやものを。

バッサリオ　可愛らしい博士の君、卿は拙者の閨房の友としてやるぞえ。若し又拙者が不在であつたら、苦しうない、拙者の妻と同宿せい。

アントニオ　奥樣、貴女は拙者にとりて生命の親、又家の保護神。此書狀によれば船舶が碇泊地に安着したといふは、いよ〳〵事實に相違ない。

ボルシア　ロレンゾぬし、卿にもきかせることがある。これなる書記生は卿に

土產の品を齎して來ました。

ネリッサ　報酬は戴かずに、殘らず渡して上げるわいな。——さァこれは貴所とポルシアどのとのお兩人に向けて、シャイロックよりの財產讓渡の證書。自身死去の後は、財產全部を讓るといふ文句。

ロレンゾ　何所までも行屆ける御はからひ。飢ゑたるものに供へくれたる大牢の珍味。

ボルシア　おゝ、かれこれ致す程に夜も最う明け際。されど察する所、まだこれ丈の談話では、何れもお氣が濟まれまい。さ、內に入るとしませう。家に入つてから、何なりとお質問なされませい。一伍一什の物語、包まず、ありのまゝに返答しませうわいな。

グラシアノ　それが宜うムらう。所で拙者が第一にネリッサに白狀させねばなら

ぬ問題は、このまゝ明晩まで續いて起きて居るか、それとも早速寢床に入るかといふ一件。モー夜明までは たつた二時間。尤も夜が明けても暗ければしめたもの、博士隨行の書記生と、ゆつくり添臥が出來るであらう。イヤ一生の中に何が六ケ敷いとて、ヂリサの指輪を大事に持つて居るほど、氣骨の折れることはあるまい。

と一同退場

幕

ヴェニスの商人

終

明治三十九年二月二十日印刷
明治三十九年二月廿三日發行
大正元年八月十五日五版

沙翁全集

ヴェニスの商人
定價金八拾錢

著作者　戸澤正保
　　淺野和三郎

發行兼印刷者　東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地
　　大日本圖書株式會社
　　代表者　專務取締役　宮川保

發行所　東京市京橋區銀座壹丁目二十二番地
　　大日本圖書株式會社
　　郵便振替貯金口座　東京　二一九番

大日本圖書株式會社出版圖書特約販賣所

北海道 魁文舍。一二堂。富貴堂。川南。東京府 丸善。林平。大倉。水野。青野。三友。內田。杉本。文林堂。北隆館。文星堂。中西屋。東京堂。文會堂。勉强堂。二松堂。松邑。東海堂。有隣堂。十字屋。良明堂。森江。千葉縣 弘集堂。勉强堂。新潟縣 北光社。高桑。覺張。目黑。野島。西村。萬松堂支店。埼玉縣 高野。群馬縣 煥乎堂。千葉縣 多田屋。茨城縣 明文堂。川又。寺田。栃木縣 煥乎堂分舖。青木。三重縣 岩田。安屋。愛知縣 川瀨。永東。靜岡縣 吉見。谷。鳩屋。三原屋。大石。山梨縣 柳正堂。岐阜縣 郁文堂。郁文堂支店。長野縣 日新堂。水學堂。朝陽館。四澤。盛文堂。宮城縣 藤崎。英華堂。金港堂。福島縣 磐岳堂。愛媛縣 佐藤。文明堂。青森縣 青藍堂。今泉。今泉支店。山形縣 盛文堂。牧野。八文字屋。秋田縣 躋堂。東海林。藤島。富山縣 中田。學海堂。清明堂。京都府 若林。松田。大阪府 柳原。松村。開成館。寶文館。三宅。小谷。北村。今井。兵庫縣 熊谷。石田。福浦。竹內。藥師寺。中井。長崎縣 松靖。奈良縣 文進堂。滋賀縣 磨田。福井縣 品川。石川縣 宇都宮。鳥取縣 德岡。今井。久松堂。島根縣 川岡。岡山縣 山陽書籍會社。廣島縣 積善館。芸香堂。山口縣 含英堂。梅龍堂。日新堂。日新堂支店。超世館。和歌山縣 平安堂。德島縣 靜壽堂。香川縣 開益堂。開文舍。愛媛縣 向井。土肥。足立。高知縣 富士慈。福岡縣 佐野。積善館。博文社。金文堂。大分縣 甲斐。中園。梅津。佐賀縣 牧川。平井。五郎川。熊本縣 長崎。宮崎縣 修進堂。鹿兒島縣 吉田。金光堂。沖繩縣 小澤。臺灣 新高堂。

製本岡豆

明治四十四年一月調

38
691

75

終